

# 夢じゃーなる

42号は令和3年度1年間の活動をまとめて紹介しています



宝塚市 千種 桜並木



川西市 猪名川溪谷



兵庫県

阪神北地域



三田市 心月院



猪名川町 柏原の棚田



伊丹市 昆陽池公園

## CONTENTS

正・副委員長／局長コメント	…… P1	全体活動紹介	…………… P2
グループ活動紹介	…………… P3-12	専門委員紹介	…………… P13-14
		地域ビジョン2050/編集後記	…………… P15

ご自由にお持ち帰りください

## 委員長・副委員長コメント

## 地域を想う気持ちはこれからも 永続いたします



第10期阪神北地域  
ビジョン委員会  
委員長 松元 一路

日頃より阪神北地域の県民の皆さまには多大なるご支援及びご協力をいただきまして、ビジョン委員一同心より厚くお礼申し上げます。

さて第10期ビジョン委員の任期2年間を終えるにあたり振り返りますと、新型コロナウイルスの感染状況に大きく影響を受け、様々な企画やイベントはもとより委員同士の会合や調整もままならない日々が長く続きました。

その中でも各委員はアイデアとIT機器を使いこなし、機会をとらえてイベント等を実施し、感染対策に十分配慮しながらそれぞれの成果を得ることができました。

本来であれば阪神北地域の皆さまにもっとたくさんの地元のいいところや見どころをご紹介できたのですが、少々悔しい思いもいたします。

私達第10期は任期を終えますが、地域を想う気持ちはこれからも永続いたします。今後とも引き続きどこかで活動は続けてまいりますので、またお目にかかる機会がございましたら何卒よろしく願いいたします。

コロナが蔓延し対面活動も制限され、思うような活動ができない無念の2年間でした。各委員は、地域の未来につながる取組や人とのつながりを大事にしたい等、色々な希望や思いを持って活動をされてきました。結果、各委員には大きな達成感が残っていると確信しています。今後も、地域活性化に向け更なる発展を遂げられることを祈念します。

副委員長として、皆さまの協力のもと各グループ活動が無事終了できたことを感謝いたします。

副委員長  
池田 利男



第1期より第10期まで20年間、阪神北地域の発展のために各期の各位が大変努力された実績は、大いに感謝され、新しい体制にも継続されていくことと思われまふ。小生も第8期・第9期・第10期と6年間努めさせていただき、ご指導を賜ったことを心より感謝するとともに皆さまと一緒にさせていただいたことに感無量です。特にコロナ禍でも活動記録集の作成まで漕ぎ着けられたのは、敬服の至りです。ビジョン委員会の「OB会」設立の声もあるようなので、賛同させていただきたく思います。

第10期の活動を振り返る時、世界的なパンデミックによる影響を抜きにして語ることはできません。本活動の、1.全体会 2.企画調整部会 3.広報部会 4.各グループ活動 5.未来フォーラム(夢会議) 他は、多くの障壁に向き合い試行錯誤を繰り返しながら活動を進めました。この過程で各メンバーはコロナ禍の先を見る眼が育ったと思われまふ。人類の叡知とそれに基づく行動が、未知の困難に対して一歩ずつ踏み出されているのを実感した2年間でした。

副委員長  
片山 辰雄



副委員長  
建部 久美子



## 局長コメント



阪神北県民局  
局長 和泉 秀樹

始動時よりコロナ禍で行動が制限される中で、第10期阪神北地域のビジョン委員の皆さまにおかれましては、2年間、創意工夫を重ねてグループの実践活動を進めていただきました。心からお礼申し上げます。

第10期までのビジョン委員の皆さまがその普及と実践を担っていただいた「阪神市民文化社会ビジョン」は、令和4年3月には、県民の皆さまが2050年の「なりたい姿」を描く「阪神地域ビジョン2050」として生まれ変わります。

「阪神地域ビジョン2050」の基本理念は「コ・クリエーション(共創)が育む阪神地域」です。「共創」は多様な立場の人々が対話しながら新しい価値をつくり、つながることです。今後は皆さまが基本理念のもと、この2年間で得た経験やネットワークを活かし、それぞれの地域や活動の場においてご活躍されることを期待しています。

## 新たな地域ビジョン策定へのかかわり

阪神地域ビジョン策定から20年、改訂から10年が経過し、社会も大きな変革の中にあります。加えてコロナ禍で、私たちは地域で「つながる」ことの重要性を再認識しました。このような情勢のなか、大きな変化を乗り越えるためには、地域の特性にあわせて、住民が共有できる2050年の「なりたい姿」を描き、新たな阪神地域ビジョンを策定します。

阪神北地域ビジョン委員会は、オンラインとオフラインを併用しながら以下の意見交換を行いました。

### 全体活動 ▶ 阪神地域未来フォーラム（夢会議）

日時：令和3年8月1日（日） 13:30～16:30  
場所：リードあしや及びZoom  
参加者：120人（オンライン参加70人、会場参加50人）

2050年の未来を描いた未来像  
自らが行うベストアクションを作成



高校生や県民の方々が阪神地域（尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）の「将来こうなったらいいな」という地域の姿と各自のベストアクションを、4つのテーマごとに18班（オンライン14班、会場4班）に分かれて、グループ討議を行いました。

### 全体活動 ▶ 阪神南北地域ビジョン委員会意見交換会

日時：令和3年10月9日（土） 13:30～16:00  
場所：阪神北県民局宝塚庁舎及びZoom  
参加者：54人（オンライン参加28人、会場参加26人）

地域をいちばん分かっている皆さんに、  
阪神地域の将来像の魂の部分である  
「阪神地域らしさ」について教えてほしい。

阪神新地域ビジョン  
検討委員会委員長



新地域ビジョン案とその策定状況に対する理解を深め、他の委員と意見を交換しながら前向きな提案や活動案を、10班（オンライン6班、会場4班）に分かれて話し合いました。

### 全体活動 ▶ 阪神北地域未来フォーラム

様々な活動に取り組んでいる県民の皆さんとの意見交換

日時：令和3年11月13日（土） 13:30～14:45  
場所：三田市まちづくり協働センター  
参加者：10人（地域で様々な活動されている方10人）

阪神北地域ビジョン委員会からは、片山副委員長が参加しました。参加された皆さんそれぞれが考える、地域の未来やご自身の夢、課題などについて意見交換しました。



# エンジョイ多世代交流

多世代が楽しめる  
交流イベントの展開により

コミュニケーションのキッカケづくりを目指す



## 昨年度の活動

グループ委員の提案により、現状の地域活動では不足している多世代交流のきっかけづくりを目指し、下記の5つのイベントを企画しました。

- 1.大災害時のクッキングオンライン講座
- 2.巡礼街道の歩き方教室
- 3.会議の上手な進め方実践講座
- 4.洗っても手に残っている細菌観察体験会
- 5.子ども生け花と自然物工作の集い

コロナの感染状況が厳しくなる中で子どもを集めるイベントは避けたほうがいいなどの判断もあり、グループ会議を重ねる中で昨年度開催予定だった全てのイベントを次年度に延期しました。

イラスト：竹内ノリノリ

## 今年度の活動

今年度に入っても厳しい状況は続き、グループとして初めてのイベントが実施できたのは10月でした。10月から12月にかけて3つのイベントをようやく実施できました。特に10月には、ビジョン委員会の「自然の学びグループ」とのコラボイベントとして新たに企画した「メダカの学校」のイベントを猪名川町で開催できました。細菌観察体験会はコロナがまん延状況の中で子どもを集める細菌イベントは避けるべきとの判断から、讃岐うどんづくり教室に企画を変更して開催しました。令和4年に残り3つのイベントを開催する予定で準備を進めましたが、オミクロン株による感染状況の悪化により残念ながら開催を断念しました。

### 実践活動

## 講座で学び歩いて体験「巡礼街道の歩き方教室」

日時：令和3年10月2日（土）

場所：宝塚市男女共同参画センター エル 会議室

リタイア後、四国、熊野、スペインの3つの巡礼街道を踏破された豊田修己氏を講師にWITHコロナ時代の健康レジャーとして世界的にも見直されている「巡礼街道歩き」の、体験に基づいたお話（例えば日本国内よりスペインを歩く方が経費が安くつくなど）を聴くことができました。

講義の後、阪神北地域に残る巡礼街道を実際に歩いて体験しようということになり、後日、紅葉の時期に大阪府箕面市の勝尾寺から箕面の滝（箕面大滝）を經由して阪急箕面駅までのコースを歩くことにしました。

街道歩き体験会 開催日時：令和3年12月1日（水）

古くより『勝運の寺、勝ちダルマの寺、紅葉の名所』として知られる勝尾寺へは阪急北千里駅からバスで向かい、紅葉で染まった勝尾寺から阪急箕面駅までは、ほとんどが下り道でまさにシルバー向きのコースでした。前夜の大雨で水量が大幅に増した大滝の迫力、箕面名物のモミジの天ぷらを楽しみました。「巡礼街道歩き」としては阪急箕面駅から西国二十四番札所中山寺まで歩くのが本来の巡礼街道コースですが、参加者の体力を考慮し阪急箕面駅で笑顔で解散しました。



巡礼街道の歩き方教室



勝尾寺のだるま

箕面の滝

## 実践活動

## 自然の学びグループとのコラボ・イベント メダカの学校

お互いのグループの特色を生かしたコラボ・イベントとして開催。参加した子ども達にも大好評！

日時：令和3年10月17日（日）

場所：猪名川町立ふるさと館及び猪名川町環境交流館

猪名川町固有の種である黒メダカの保護施設「環境交流館」での学びと、「ふるさと館」での学びを組み合わせ、大人も子どもも楽しめるエコツアーとして実施しました。

当日は風が強く吹いていて、環境交流館隣の屋外で実施予定だったドローンの操縦体験会が、ふるさと館での室内実習に変更せざるを得なかったことは残念でした。しかし、環境交流館では黒メダカの保護活動をスライド学習したのに加えてハーバリウムペン作りも教えていただき、最後に立ち寄った「道の駅」では特別に用意していただいた町の特産である枝豆も購入でき、子どもたちはもちろん、大人も楽しめた1日となりました。



環境交流館 屋外ビオトープ



ハーバリウムペン作り



ドローン操縦体験

## 実践活動

## 讃岐うどんづくり教室を開きました！

日時：令和3年11月13日（土）

場所：宝塚市立東公民館3F料理室

笑顔はじける 『ビックリうどん作りの名人』に挑戦

講師から豆知識を聞きながら体験しました。

難しい塩水の調合に戸惑いながらも、団子→足踏み300回→めん棒でのばし→包丁で細切りしたものを持ち帰り、家族に振舞っていただきました。参加者の方には、良い思い出になったのではないのでしょうか。

## [参加者のコメント]

手間をかける程に味わい良く頂けることを再確認いたしました。感謝です！  
なかなか手間のかかる技量。これも食文化の一端なのでしょう。



## 2年間を振り返って

コロナに明けコロナに暮れた2年間でしたが、グループ名どおりにビジョン委員会活動をエンジョイできました。グループ会議はコロナに負けず、毎月1回のペースで継続して開催しました。

イベントは結局2年間で3つしか開催できませんでしたが、グループ会議を重ねての結果でしたので、ビジョン委員会活動はエンジョイグループメンバーにとって笑顔で語り合った明るく楽しい2年間となりました。

# 防災マイスター

阪神北地域の防災・減災のために

市民の意識・知識を高め

情報収集や発信活動を行う

## 昨年度の活動

1 コロナ禍における避難所運営ゲーム (HUG) を実施  
メンバー全員で、感染症対策を注意深く取り入れ実施

2 防災講演会実施

防災講習会の会場にて

「災害時代における地域コミュニティの在り方」

講師 室崎 益輝 (兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 科長)

「実践! 家庭の防災術」

講師 室崎 友輔 (地域防災プランナー・防災士、NPO法人兵庫県防災士会理事 (神戸エリア担当)、減災環境デザイン室代表)

震災の写真展示と障害者就労施設で作られた生製品の販売ブースの出店

## 今年度の活動

1 避難カード作成

災害の危険が迫っている時に、「だれと」「どこへ」「どのように」避難するかを予め家族で確認、財布等に入れておき、いざという時の避難行動に役立てるためのカードです。

2 防災ノート作成

大きな災害に備えて!

家具の転倒防止・脱出経路確保・備蓄品・非常持出品・安否確認・避難場所確認・隣近所への呼びかけ・避難時のために玄関内に置く避難先表示等をまとめたノートです。

3 「家族で学ぶ! 親子防災講習会 (地震編)」実施

講師: イタミライフキーパー代表 宮崎 涼二 (防災士・応急手当普及員)

『助けられる人から、助ける人になる』をサブテーマとして分かりやすく講習



カードサイズの避難カード



グループ会議

## 実践活動

## 防災講習会

日時：令和3年12月5日（日）

場所：宝塚市立中央公民館 ホール

## 『家族で学ぶ！ 親子防災講習会』

入室段階からコロナ対策を厳重にして、家族単位でシートに分かれて実施しました。

講習会の趣旨である「児童と親の防災」を専門とする宮崎講師の分かりやすいクイズやゲーム形式でリラックスした雰囲気の中で実施しました。講師の問いに児童たちは元気に対応しており、効果的な防災講習となりました。



受付



会場

PETボトルと紙コップ  
を使ってランタンを作  
りました。



ランタン作り



イタミライフキーパー 宮崎代表

## 実践活動

## 避難カードと防災ノート

阪神北地域は地震・水害・土砂災害についての備えが重要であると考えています。避難時に重要な情報をコンパクトにまとめた「避難カード」とこれに関連した重点事項をまとめた「防災ノート」を作成しています。それらを各市町の危機管理部門等に配布し、災害への備えと避難時の安全確保を提案します。



避難カード



防災ノート

## ■ 防災の研修

国際的に著名な「人と防災未来センター」は、阪神・淡路大震災の貴重な情報が保管され、公開されています。「忘」の文字に込めた思いの研修を実施する予定です。

(3月予定)

## 2年間を振り返って

兵庫県は1995年に阪神・淡路大震災を経験し、その後も続く自然災害に対して行政・民間共に防災・減災に注目し、歴代のビジョン委員会も同様の活動をしてきました。自然災害は範囲が広く、規模や様相が大きく異なる中、10期の委員としては、防災士を含むメンバーで広範囲な視野で活動を開始しました。

コロナ禍にあり、当初オンラインと対面会議で開始し、1年目はHUG研修と室崎親子による講演会を行いました。2年目は「防災マイスター」とグループ名や方針を変え、災害時に役立つ「避難カード」「防災ノート」の作成、防災講習会を中心に活動を開始しました。防災マイスターの活動を通して市民の方々に防災・減災に対する意識や知識を伝えることができ、有意義な活動ができたと思います。

# 阪北ファーム

無農薬野菜の栽培と実践を通じた  
新たな農業モデルを構築する

## 昨年度の活動

昨年度は宝塚市安倉南の市民農園およそ15㎡を借り、グループ委員の間で無農薬栽培の基礎を実践を通じて学び、無農薬栽培に適している無施肥（無肥料）という考え方を同時に学んでいきました。コロナ禍で福祉団体などへの無農薬野菜の提供というのは十分にできませんでしたが、グループ委員が無農薬無施肥（無肥料）でも野菜が作れるということが理解できました。

川西市・黒川農園

## 今年度の活動

阪北ファームグループ代表による2回の座学により無農薬無施肥（無肥料）での野菜作りの基礎知識や土作りに関して畑での実践だけではなく理論を学びました。1回目の座学では土と草の基礎知識、2回目の座学では、より深い知識を身に付け、実践で使えるように天地返し※についても学び、翌月の実践活動で天地返しを実行しました。

※天地返し…畑の表層と下層の土を入れ替える作業

実践活動

### 安倉南農園（宝塚市 市民農園）

初年度はコロナが流行り出した年で状況も分からないため、夏野菜の栽培がギリギリの状態からのスタートでしたが、草を抜かずに刈るという無農薬無施肥（無肥料）の方法にグループ委員も「本当にそれで野菜ができるのか？」と言っていましたが、収穫の際は目から鱗が落ちるような思いでした。





## 実践活動

## 黒川農園（川西市）

本年度は安倉南農園とともに川西市黒川に約500㎡の農地を借りて、より実践的な無農薬無施肥（無肥料）栽培を学んでいきました。安倉南農園では「天地返しした畝」と「天地返ししていない畝」で育ちがどう違うかの実験を行い、黒川農園では最初にジャガイモを栽培し、ジャガイモの芽欠きをした芽からジャガイモが育つことに「芽は、いままでは捨てていた」と衝撃を受け、貴重な体験となりました。



ジャガイモの植え付け



## 実践活動

## イモ掘り体験

日時：令和3年11月21日（日）

場所：黒川農園（川西市）

黒川農園では計2回、一般の方を招いてジャガイモ掘りとサツマイモ掘りを行いました。特にサツマイモ掘りでは福祉施設の方を招き、サツマイモのツルを刈って、芋を掘るところまで体験していただき、掘ったサツマイモなどを持ち帰っていただきました。福祉団体への提供も行いました。



サツマイモ掘り体験



ジャガイモ掘り体験

## 実践活動

## 講演会「ひょうごの在来作物の保存活動」

日時：令和4年2月4日（金）

場所：川西市みつなかホール 第1セミナー室

阪北ファームグループの活動の総決算として、「ひょうごの在来種保存会」から講師を招いて「ひょうごの在来作物の保存活動」について講演会を行いました。無農薬野菜という訳ではありませんが自家採種を行い、種を繋ぐということも無農薬無施肥（無肥料）栽培には重要なことであり、ボランティアで活動している在来種保存会の活動を知ってもらおうと一般参加者も募集し開催しました。



講演会

## 2年間を振り返って

新型コロナウイルス感染症が流行り、活動が一部制限されるなどで委員としての活動も数か月遅れるという事態となりましたが、阪北ファームグループは主に外での活動であったために定期的に集まり活動できていたと思います。グループ委員の中でも多少活動への温度差があり、熱心に学ぼうという方とそうでない方が明確に分かれたことが残念でした。全体的にはグループ委員が無農薬無施肥（無肥料）栽培を学び、草を活かすという事を知り、農の楽しさを知ったということで目的は達成したと思っています。

# 自然の学び

地域の自然環境や文化を学び  
 これからの地域づくりや、まちづくりに  
 活かすためのエコツアーを実施する

## 昨年度の活動

北に北摂連山、東に猪名川、西は武庫川に囲まれ育まれた地域、伊丹は奈良時代（天平3年）に僧行基が農業用の溜池を創りました。今は昆陽池公園で野鳥のオアシスとなっています。宝塚は聖徳太子が堂舎建立したことに始まる中山寺。秀吉が観音祈願で秀頼を授かり、秀頼は父秀吉に代り今の山門の本堂等を再建したと言われています。安産祈願、お礼参り、紅白千本梅園で有名です。

エコツアーでは昆陽池のカモの観察、山本から売布神社まで巡礼街道を歩きました。

宝塚市・あいあいパーク

## 今年度の活動

5月に予定していた第3回エコツアーをコロナの感染が拡大してきたため、やむなく延期しました。6月には今井一郎専門委員を講師に招いてエコツアーの意義について学びました。コロナの感染状況が少し穏やかになったので、3密（密閉・密集・密接）を回避しながら7月に第3回エコツアー「白洲次郎と川本幸民」（三田市）を実施しました。参加者38名。三田市観光協会のガイド支援並びに心月院の児島正龍住職様の講話をいただきました。10月に第4回エコツアー「メダカの学校」（猪名川町）を実施しました。参加者36名、初めてエンジョイ多世代グループとのコラボで行いました。ビジョン委員会の他グループとの協力関係も勉強になりました。11月に第5回エコツアー「弥生時代の加茂遺跡」（川西市）を実施しました。参加者32名。川西市文化財ボランティアガイドの会のガイド支援をいただきました。参加いただいた方々の、アンケートによると好感を持ってくださり、高い満足点をいただくことができました。目標の4市1町のエコツアーを実施できました。年度末に向けて、座学の研修と活動記録のまとめを行い、今後につないでいく宿題が残っています。

### ■グループ会議



グループ会議で阪神北県民局管内5地区（伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・猪名川町）の自然や文化等を学び、紹介するために全5回の「エコツアー」を計画し、事前調査、役割分担を決定しました。

### ■研修



グループ活動のベースは、委員がエコツアーの本質や具体的な取組方法、そして、北摂の自然環境や歴史文化を理解し学ぶことにあります。グループ内外の講師にて研修を実施し、レベルアップに取り組みました。

## 実践活動

## 第3回エコツアー

日時：令和3年7月25日（日）

場所：旧九鬼家住宅資料館 三田城址 心月院

三田観光協会のガイドの案内で旧九鬼家住宅資料館、三田ふるさと学習館、三田城跡、川本幸民顕彰碑、心月院九鬼家墓所まで訪ね、心月院で昼食後、児島正龍住職の講話と掛け軸、襖絵等の説明がありました。三田駅までビジョン委員の小野正彦氏と三宅具子氏のガイドで白洲次郎出生地、川本幸民出生地、妙三寺を訪ねて三田駅で解散しました。



三田城址

## 実践活動

## 第4回エコツアー 兼 メダカの学校

日時：令和3年10月17日（日） 場所：猪名川町立ふるさと館及び猪名川町環境交流館

エンジョイ多世代交流グループとのコラボで開催しました。ふるさと館では明満上人の手による木喰仏や昔懐かしい民具等の展示見学とドローンの操縦体験をしました。ふるさと館の近くには親水公園や野外ステージもあり四季を通じて楽しむことができます。環境交流館は使用停止となったプール跡を利用した施設です。ビオトープは新名神の工事が出た土砂を再利用して手作りされたものです。



ふるさと館

猪名川町には「三白（米、酒、寒天）三黒（炭、牛、粟）」と呼ばれた特産品があり、昔の産業として展示されて大人も子どもも楽しめます。



環境交流館 屋外ビオトープ

屋外のビオトープでは国の絶滅危惧種に指定されている「黒メダカ」を見ることができます。屋内の展示室では珍しい水生生物が展示されています。また、新名神の橋脚の下となった蓮も移植され、睡蓮とともに彩を添えていました。手作りならではの温もりがあり、猪名川メダカコムズの皆さまの努力に頭が下がります。

## 実践活動

## 第5回エコツアー

日時：令和3年11月7日（日）

場所：勝福寺古墳 川西市文化財資料館 加茂遺跡…

勝福寺古墳は出土品により6世紀初め第26代継体天皇に関係したこの地方支配の豪族と思われ格式高い全長40mの前方後円墳です。奈良時代創建の川西市域最古の寺、栄根寺廃寺や弥生時代中期の加茂遺跡は近畿地方を代表する大規模集落として評価されています。川西市文化財資料館では先人達が残した貴重な文化財が保管、展示され、その重要性を人々に伝えています。



勝福寺古墳

## 2年間を振り返って

自然の学びグループもコロナ禍で計画が進まず苦労しましたが、グループ各位の知恵と工夫により、目標の達成に至り誠に喜ばしいことでした。令和2年8月の第1回グループ会議でかかげた今期の目標は、「エコツアーは2年間で5回4市1町を巡り実施する。」「地域との交流を図る。」「里山文化を守る。」「伊丹諸白等の地域文化の紹介をする。」「ガイドの技法と心得、注意点を学ぶ。」「エコツアーの開拓、人材の育成、発掘を図る。」

2年間で目標がほぼ達成できたのは、グループ各位の努力の賜物であります。

# ひょうご北摂☆ 食・動・楽・街

「食・動・楽・街」を切り口に魅力を掘り下げ、

ローカル情報媒体と連携して

地域の魅力を発信する

## 昨年度の活動

20歳台から90歳台まで、幅広い年齢層の委員10名がテーマを出し合い、4市1町の魅力深掘り探索を計画しました。初年度は、三田市のしいたけを西日本最大級の観光農園で深掘り、宝塚市(西谷)では里山再生～西谷の森公園～丸山湿原～上佐曾利ダリア園を探索しました。

委員間の情報共有可能手段(メール・LINE・電話・FAX・郵送)のバラツキをなかなか克服できず、新型コロナ感染が拡大し始めてからは、グループ活動の難しさを一層痛感する一年となりました。

猪名川町・大野山展望台からの眺望

## 今年度の活動

新型コロナ感染拡大で年度始めから出鼻をくじかれ、グループ活動では対面の打合せ、リアルでの現地探索ともに大きな制約を受けるなど、スタートから大きく出遅れてしまいました。その中で、宝塚市(売布)・伊丹市・川西市・猪名川町を舞台に、要所では地元ボランティアや専門家のお力も借りながら、4つのテーマでグループ活動を実施しました。

私たちの住いの身近な場所に、未だ見ぬ魅力を発見でき、「ひょうご北摂」の「食・動・楽・街」を切り口とした活動報告にまとめていきました。情報媒体との連携と発信は手探りのままに終わり、次への課題となりました。

### 実践活動 ▶ 売布神社から浪漫旅 ～天女の羽衣を求めて～

宮司の由緒情報、資料文献から売布の浪漫を語る試みです。布を売っていた史実は不明ですが、呉から衣を届けた織姫伝説につながる伝承には、当地の歴史の深さを感じます。兵庫県は古墳数1位、遺跡数2位ですので、未だ見ぬ歴史を紐解く今後の研究にも期待が膨らみます。



川端道春 著 (川瀬書店)



売布神社

「宝塚の風土記」では、天照大御神の食事を司る伊勢神宮外宮の豊受大神を辿ると、売布神社が発祥の地とされています。売布の名前は「海藻生」「襦布」等、諸説多いとのこと。布帛については「天女羽衣伝説」など、西国街道・海ルートで、呉から港のある西宮・松原神社、池田の呉羽、京都へとつながっています。七福神巡りは阪急路線・開発の小林一三氏による影響が大きいそうです。

### 実践活動 ▶ 日本遺産・伊丹郷町を深掘り

『伊丹諸白』と『灘の生一本』を生んだ銘醸地・伊丹に、酒好きの委員が史跡の謎にも惹き寄せられて。



有岡城(伊丹城)跡



白雪フルワー・ビレッジ長寿蔵ミュージアム

伊丹市文化財ボランティアの会の池田さんのご案内で、有岡城(伊丹城)跡～郷町長屋・みやのま文化の郷～白雪長寿蔵～老松丹水～三軒寺前広場まで『伊丹諸白』と『灘の生一本』を生んだ銘醸地を巡った後、昆陽池公園～昆虫館まで足を延ばし、チョウの乱舞を童心に帰って楽しみました。

池田さん手作りの歴史解説絵巻は、有岡城や荒木村重を深く面白く知ることができ感激しました。

実践活動

## 川西市・猪名川渓谷に、日常の散策道「多田まちみち溪流」の価値を、新たに見出し育てる

住宅地に隣接する日常生活圏にありながら、水と緑の自然豊かな溪流美を楽しめる猪名川渓谷。現況は、残念ながら歩くのも危ない車の抜け道ですが、複数の大規模住宅地に隣接し、毎日の散歩にも利用できる稀有な溪流散策道(仮称)「多田まちみち溪流」としての価値を新たに見出すことで、「川西市健康まちづくり」のキラーコンテンツに育て上げたいと思います。



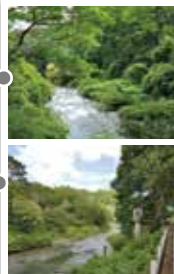
猪名川水生生物研究の第一人者・牛尾先生の指導で環境調査。

エドヒガン桜の群生と大規模住宅地を望む。

溪流の価値と向き合い、深掘りする第一歩となりました。



創設から約70年、教会の歴史、涵養活動を伺う。



溪流沿いの道。川の流れと木々の緑が心地よい。

実践活動

## 冬の猪名川町の魅力を深掘り

鉄道は終点一駅のみ、高速ICも無く、南北に奥深い町は、不思議と町民の創意工夫が芽吹く街。そこには、奥深い歴史や魅力があった…。



恋人の聖地 TwoRings

八坂神社

素戔鳴(すさの)神社 狛犬

猪名川町観光ボランティア・岡本さんのご案内で、大野山(おおやさん)展望台～柏原・八坂神社～ふるさと館～静思館(せいしかん)～素戔鳴(すさの)神社を巡りました。「道の駅いながわ」で食した地産・新蕎麦も、殊の外美味し。大野山の360度の眺望は素晴らしく、価値の活かし次第で、もっと人気スポットに進化できるのもったいないとの感想が多数。猪名川の地に多くの魅力を発見できた貴重な一日となりました。

### ビジョン委員会 変革課題

「ひょうご北摂の将来像とその実現」を目指すも、「将来像」にどう繋げるのか?という課題は、その多くが未消化に終わっています。今後に向けた共創活動の課題と解決案を掲げました。

- ① **地域での活動共有・参加呼び掛け**  
ex. 次回サクラ咲く季節に一般参加含む開催検討
  - ② **既存の地域活動との連携**  
ex. 地域活動団体「溪のサクラを守る会」等 (県天然記念物:水明台エドヒガン桜)  
ex. 竹中工務店・SDGs生物多様性保全活動 (清和台の森)  
ex. 「のせでんアトライン妙見の森」への参画 (隔年開催・次回2023年)
  - ③ **活動目標・完成イメージの見える化**  
ex. (仮称)"多田まちみち溪流"の完成イメージ (ドローン空撮、写真・イラスト制作、デジタルツイン)
  - ④ **情報発信の仕組み化**  
ex. 地域情報媒体(情報誌・WEB・SNS)との連携  
ex. 情報発信者の育成講座、サポーター登録制度  
ex. 観光協会(4市1町)との連携 (『ひょうご北摂ツーリズムガイド』への記事提供)
  - ⑤ **公的企画への段階的格上げ**  
ex. 北摂里山博物館 「北摂里山魅力づくり応援事業」への応募 等
- ※ex.記載例は、「多田まちみち溪流」の場合の具体案です。

## 2年間を振り返って

ビジョン委員会という活動の場に参加させていただけたことに感謝しています。特にメンバーの方々と色々な思いを語り合い、探索活動をできたことは意味のあることでした。一方で、ビジョンの在り方(メンバー募集時を含む)は、「将来像とその実現」という目標がトップダウン的に示されるも、グループ活動を「将来像」にどうつなげるのか?という課題は未消化で、自省を込めて、次年度以降のビジョン委員会活動の変革と進化の必要性を痛感しています。

「ビジョン・将来像の実現」の先に、コロナ禍を乗り越える創造と進化、希望に満ちた未来を期待します。

# 専門委員からのメッセージ

第10期阪神北地域ビジョン委員の皆さん、2年間の活動大変お疲れ様でした。

突然の新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) のパンデミックにより私たちの生活は大きく変わり、以前のように大勢で集まることや会食することなどの行動が制限・自粛を求められているこの2年間だったと思います。制限された行動ではありますが、一方ではICT機器が急速に普及・発展し、**私たちの様々な生活シーンでオンラインを活用**した会議やイベントが行われるようになりました。

取り分け学校教育では、小・中学生にPCやタブレットが配布され、小学校低学年からタブレットを駆使しての授業が一気に進み、今後さらに教育場面を含め様々な場面でオンラインの活用が進むことで私たちの生活様式も大きく変わることになるだろうと思います。そのような様々な制約や変化のある中で、**ビジョン委員の皆さんの地域に根ざした地道な活動の一步は、たとえ小さな一步だとしても阪神北地域にとっては大きな一步であることは間違いないと思います。**

今年度末にこれまでの20年間の地域ビジョン委員活動をより発展的に捉え、新しいビジョン「阪神地域ビジョン2050」で地域のキーパーソンで構成される「地域ビジョン企画委員会」に発展的に改編され「**今広がっている既存の事業・人材・ノウハウのネットワークを広げ、先導的でおもしろい地域づくり活動・ビジネス等に若者・県民をつないで新しい層を取り込んでいくことに焦点を当て、ビジョン実現に向けた公民連携・参画と協働の輪を広げていくことに取り組んでいく**」とのことで大いに期待したいと思います。

第3期 (2005年) から第10期までの17年間、専門委員として各期のビジョン委員の皆さんとの出会いは、私にとって貴重な17年間でした。また、何かの機会にご一緒できることを楽しみにしています。

大手前大学  
総合文化学部  
教授 芳田 茂樹



第1分野



兵庫県立  
人と自然の博物館  
研究員 大平 和弘

こんにちは、専門委員の大平です。阪神北地域ビジョンに関わる皆さま方におかれましては、今年度の成果の総括と次年度の活動に向けてご活躍されていることと思います。

さて、新型コロナウイルスの長期蔓延は、私たちの暮らしに大きな変化をもたらしました。種々の自粛や行動制限、社会に対する負の影響は計り知れないものですが、一方で造園学や地域での環境計画を専門とする立場からみると、**コロナ禍で新たな可能性が見えてきた**こともあります。

たとえば、オンライン化によりどこでも仕事ができる社会となり、都市で密に暮らす必要がなくなり、**自然豊かな地域で暮らすことを選択**できるなど、働き方や住まい方に選択肢が広がりました。また、余暇時間の過ごし方や子育てシーンについても、室内での密を避け、公園でゆっくり過ごしたりキャンプに挑戦したりといった、**自然と親しむ行動**が飛躍的に増えました。さらに、都市や遠くの有名観光地を避けた行動は、**身近な地域の魅力**を発見する機会や地域資源を活用したビジネスチャンスにもつながります。このような社会変化は、**持続可能な地域づくりの発展に希望が持てる変化**といえるのではないのでしょうか。

このたび、兵庫県では新しいビジョン「ひょうごビジョン2050」、阪神地域では「阪神地域ビジョン2050」が策定されます。私は両ビジョン策定に関わらせていただきましたが、上記のようなコロナ禍で見えた希望をもとに、**地域で自分らしい生き方を選択し、新たなことにチャレンジして、新しい価値を生み出していける社会**となることを全面的に打ち出した内容となっています。皆さま方の新しい取り組みが、**ウィズコロナ、アフターコロナ社会における地域づくりの先導的取り組み**となっていくことを切に願っています。

「コロナ禍」がニュースに上らない日はありません。今や私たちは新型コロナウイルスの最新の感染状況によって行動が決められてしまった感があるほどです。現状では、人間社会にとってウイズコロナ（COVID-19との共生）はやむを得ないと言われていています。第10期ビジョン委員の皆さんは、コロナ禍によって活動に多くの制約を受け、悔しい思いをされたのではないのでしょうか。それにもかかわらず、**委員の皆さまをはじめご関係の方々が柔軟にアイデアを創出し困難を乗り越えてこられたことに敬意を表します。**

さて、有史以来人間の存続にとり大きな脅威となった危機(リスク)としては、①媒介感染症などの病気、②飢餓、③戦いがあります。これらは相互に関連しながら人間の存続に影響を与える基本的な健康リスクであり、現在に至るまで存在し続けています。人類の歴史をふり返ってみると、まず狩猟採集生活から定住生活を始め都市で暮らすことにより、水や大気を介した感染症、栄養欠乏症などによるリスクが生まれました。産業革命以降は有害化学物質が放出され、さまざまな病気にかかるリスクが生まれました。さらに栄養の摂りすぎや地球環境問題が全世界を巻き込むリスクとなっています。**地域社会において多面的なリスク管理を確立させることが、今後取り組むべき活動テーマの1つになります。**

また、私はウイズコロナ、アフターコロナを視野に入れて暮らしのテーマを練り直す必要があると思います。本県における地域ビジョンの企画・実現に当たっては、従来のテーマの焼き直しにならない取り組みが必要です。たとえば、阪神北地域でも少子高齢化と国際化現象が急速に進んでおり、地域の実情に応じて対処・解決すべき諸問題が山積しています。**事実にもとづき現状を認識したうえでの議論がもとめられます。**不肖私も無い知恵を絞り議論に参加させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

関西学院大学大学院  
総合政策研究科  
教授 今井 一郎

第3分野



第4分野

神戸国際大学  
経済学部  
学部長 滋野 英憲

ビジョン委員の皆さまは、2年間にも及ぶコロナ禍により、多くの活動が制約されさぞ忸怩たる思いでいらっしゃるかと存じます。また、このような状況の中でも、**できる限りの活動を一生懸命に実施されているご様子に感服している次第です。**

私自身、専門委員として皆さまのサポートを全くできず残念至極な気持ちいっぱいです。一日も早くコロナ感染症が終息し、皆さまの活動に支障をきたすことのない日々が訪れることを願うばかりです。

この紙面をお借りし、わたくしの近況報告をさせていただきます。私共の大学も皆様と同様に、コロナ禍の影響で授業の8割は遠隔授業となり、多くの行事は中止に追い込まれています。特に、留学を希望している学生はこの2年間一人も海外留学を実施できません。また、海外からの留学生も日本へ入国できず現地で遠隔授業を受講する状態が続いています。国内外の学生たちが海外での貴重な体験をする機会が奪われ、国際交流を通してグローバル社会へ参画する礎を築けない状況に無念さを感じています。

研究面においても、国内外の学会発表は全て遠隔で実施され対面で研究者同士がディスカッションする機会も制約されています。**対面で交わされるディスカッションの中から、新たなアイデアや研究指針が生まれることの大切さを改めて痛感させられました。**

私の研究テーマは、中小企業にけるイノベーションプロセスの研究ですが、直接企業にお伺いしてインタビューすることもできず、コロナ禍の大変な状況の中で調査依頼をお願いすることもできないまま2年間が過ぎてしまいました。この間、**過去の研究データを新たな視点から分析し、中小企業でのイノベーションは、直近の業績に反映されることは少ないが数年後の業績に好影響を与える傾向にあることを知ることができました。**

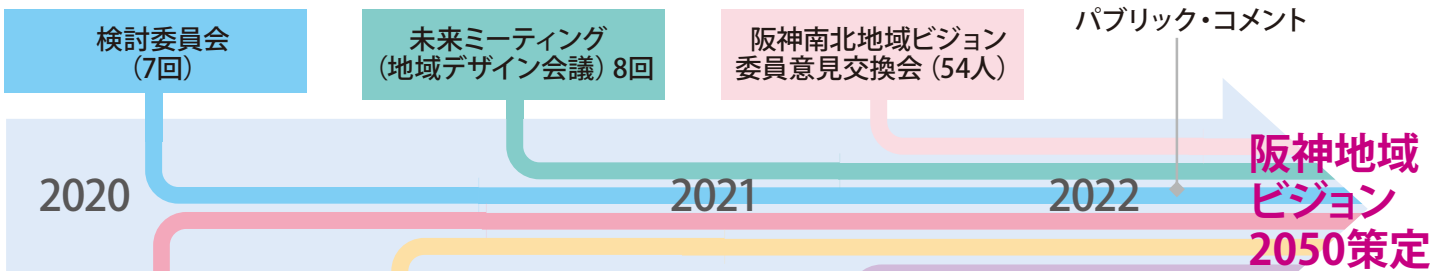
**まさに、温故知新の年であったと思います。**

最後になりますが、これまでの皆さまのご活動に敬意を表すとともに今後のご活躍を祈念しています。

# 「阪神地域ビジョン2050」は多くの方の意見を聞いて策定されました

「阪神地域ビジョン2050」の策定主体。2020年6月発足

県民有志が討議を重ね将来の地域デザインを描くワークショップ



**検討委員会 (7回)**

**未来ミーティング (地域デザイン会議) 8回**

**阪神南北地域ビジョン委員意見交換会 (54人)**

パブリック・コメント

**ヒアリング・アンケート (81件、2092人、2校)**  
事業者・地域団体へのヒアリング及びアンケート、学生アンケート、出前講座

**ビジョンを語る会 (19回、387人)**  
地域団体等のメンバーなどで、地域の課題や将来像について車座形式で対話

**未来フォーラム (3回、140人)**  
一般県民を集めたフォーラム 地域夢会議として開催

各議事録概要を  
ご覧になれます



検討委員会



ビジョンを語る会



未来フォーラム (オンライン)



## ◆編集後記◆

地域がつながり子どもから高齢者まで関心をひく広報誌は、魅力的な見出しや読みやすいレイアウト等ひと工夫が望まれました。市町の枠を越え地域づくりに役立てる広報誌は、活動の合流点であったように感じました。 花吉

グループ内で意見をまとめる時、ほとんどがリモート (LINE) 会議になり、直接話し合うことは異なる苦勞を重ねました。そんな中にありながらグループメンバーは、常に誠実で熱心な対話をし、自由な論議ができました。 小野

3期6年間の活動で、兵庫県の善い処や魅力を再確認し県民の誇りとなりました。畑活動では成果物を子ども食堂にも提供できました。ビジョン委員とは何か?で葛藤もあったかと思いますが最後の発刊で希望がみえました。 織田

社会情勢の厳しい変化の時でありました。人の出会いで対話と交流が生まれます。いろいろな人のつながりを持ったビジョン委員が各グループで個性豊かな活動を行い、夢じゃーなるにまとめることができました。 三宅

ビジョン委員のメンバーの皆さんと一緒に、語り合ったり深掘り探索ができたことに感謝!感謝!です。広報としての情報発信は、「夢じゃーなる」のような紙媒体だけでなく、WEB・HPやSNSの活用にも取り組みたいですね。 渋谷

## ◆第10期最後の全体会◆

令和4年2月26日 (土) に、第5回全体会を開催しました。各グループ2年間の活動を報告し、フリーディスカッションでは、他のグループ委員と交流・情報交換を行い、今後につなげていく思いを語り合いました。



宝塚庁舎会議室とオンライン併用

「兵庫県ホームページ」にて阪神北地域ビジョン委員会の活動がご覧になれます



## 発行元: 阪神北地域ビジョン委員会

(事務局)  
〒665-8567 宝塚市旭町 2-4-15  
阪神北県民局 総務企画室 総務防災課  
TEL 0797-83-3101(代表) FAX 0797-86-4379

2022年3月発行 03 神北®2-005 A4